



押杜っ子

No.2 令和8年5月21日 発行/古屋 正樹

「立夏」・・暦の上では夏

二十四節気のひとつ、「立夏」が過ぎました。校庭の桜もいつしか葉桜となり、押原の杜の木々も新緑が目に見え鮮やかとなりました。いよいよ暦の上では「夏」到来です。(多目的ホールから望む押原の杜の緑はまさに圧巻です)

今年は、すでに日の最高気温が30℃を超える日が続いており、例年に比べて暑さが前倒しとなってきているように感じます。体感的にもすでに「夏らしさ」を感じる5月となりました。

この時期は、木々は最も生長の盛んな時を迎え、吹き抜ける朝夕のさわやかな風は、非常に心地よいものがあります。そんなさわやかな様子から、5月の風は、別名「薫風」^{くんふう}「若葉風」^{わかばかぜ}「草分けの風」^{くさわけかぜ}などと言われています。身体で感じる夏だけでなく、昔から伝わる「言葉」からも初夏の清々しさを感じられますね。日本の古き良き文化は、大切にしたいものです。



押原の杜の新緑



1日の始まりは「あいさつ」から

毎朝、子どもたちは元気に登校してきます。児童会本部の子どもたちは早速玄関に並び、教室へ向かう子どもたちに元気よくあいさつし、さわやかに迎え入れてくれます。私も負けじと子どもたちに元気に声をかけ、「1日元気に過ごしてくれますように・・」と願いながら迎えるようにしています。

あいさつは、相手との良好な関係づくりをしていくうえで欠かせないものです。その一言が、次の「会話のきっかけ」となり、徐々に話に花が咲き発展していきます。以前目にした横断幕に、次のような言葉が載っていました。

「あいさつは 心と心をつなぐ 魔法の言葉」

これは、小学生が考えた標語ですが、言い得て妙だと思いませんか。これからもっともっと「おはよう」「こんにちは」と声を出し、友だちや先生、地域の方と「心をつなぐ」風土を創っていきたいと思います。もちろん私も、教職員も気持ちのよい挨拶を心がけていきたいと思います。



授業参観・PTA 総会等 ありがとうございました

4月24日に行われた、授業参観・PTA総会・学年部会にご参加いただきありがとうございました。たくさんの保護者の皆様にご来校いただき感謝申し上げます。どの教室でもたくさんの保護者の方々に参観していただき、温かく見守られる中、子どもたちはちょっぴり恥ずかしそうにしながらも、とてもうれしそうにしている姿が印象的でした。子どもたちの学校の様子を直接感じていただく、学習内容を理解していただく、学級担任を知っていただく、保護者同士顔を合わせていただく…、こういった機会はとても貴重だと感じました。



授業後のPTA総会では、あまりの保護者の多さにうれしさがこみ上げました。こんなにもたくさんの保護者の方々が、我が子に、また、押原小に関心をもって残ってくださっていることに感動しました。改めて感謝申し上げるとともに、保護者の皆様の期待に応えられる押原小でありたいと強く思いました。



また、4月末から5月初めにかけて行われた家庭訪問におきましても、お忙しい中、ご都合をつけていただきありがとうございました。直接、膝を突き合わせてお話しできる機会が少なくなる中、子どもを取り巻く環境について情報を共有する貴重な時間となりました。ありがとうございました。

たてわり活動がスタート！！

子どもたちが楽しみにしている「たてわり活動」がスタートしました。たてわり活動は、「子どもたちが異年齢の友だちと交流し、社会性や協調性を育む」ことにあります。上級生は下級生を思いやり、下級生のお手本として行動する。また、下級生は上級生とふれあうことで楽しみを見出し、集団行動からルールを学び、上級生への憧れを持つ。つまり、異年齢と一緒に活動することで、一人一人の良さを生かし、自己肯定感や自己有用感を高めることができるのです。



押原小では、6年生がリーダーシップを発揮し、たてわり活動がスタートしました。先日も顔合わせの会があり、早速、遊びを通して仲良くふれあっていました。



学校は、「学習」が第一の目的です。そこには、国語、算数に始まる教科の学習は言うまでもありませんが、実はそれだけではなく、人と人とのふれあいの中から学ぶ、教科以外の「学習」もあります。その一つが「たてわり活動（児童会活動）」であり、その活動を通して誰もが人として成長していくのです。これからの活動を通して、お互いに高め合っていく姿を楽しみにしています。